

第16回 四万十源流 広見川上り 駅伝大会



1

過去最多の出場者

8月5日、日本最後の清流四万十川の支流である広見川を舞台に、今年も夏の一大イベント「四万十源流・広見川上り駅伝大会」が開催されました。

全国的にも知名度が上がりつつあるこの大会。今年は、駅伝一般の部37チーム、駅伝女子の部11チーム、鉄人の部20人と、過去最多の出場者が広見川に挑みました。

甲岡町長の合図で水しぶきをあげながら一斉にスタートした選手たち。一人で、ある

いは仲間とたすき代わりのヘルメットを繋ぎながら、懸命に上流目指して走り抜きました。

「水のある場所しか走ってはいけない」この大会では、走り終わると同時に力尽きてしまう選手も多く、初参加の選手からは予想以上の自然の厳しさに「こんなに辛いとは思わなかった」との声も聞かれるほど。さらに前日までの雨の影響で例年よりも水量も多く、ベテランの選手たちでさえも苦戦している様子が見られました。

思うような結果が残せず悔しさに涙する選手や最後まで笑顔で走り抜いた選手など、走り終えたその表情は様々でしたが、選手全員が懸命に走るその姿に、見る人全員が魅了され、橋の上からは絶えず観客からの熱い声援が送られました。



4

一人で走り抜く強さと、仲間と繋ぐ絆のリレー

3



2

